



SPRING/SUMMER ISSUE

May 22, 2024

ニュースレター 春 / 夏号 テキサス日本語教師会

Japanese Teachers Association of Texas (JTAT)

<https://jtat.org/>



目次 [敬称略]

pp. 1~2

会長のご挨拶

JTAT 会長 北條 エリザベス

p. 3

ヒューストン日米協会からメッセージ

ヒューストン日米協会 (JASH)

片山 育代

pp. 3~4

日本語スピーチコンテスト報告

JTAT 副会長 井上 とも子

p. 4

日本語スピーチコンテストについて

Isabella Tan

p. 5

JTAT 2023 年度 SIG#2

JTAT 秘書 福重 佐知子

pp. 6~7

JTAT 2024 年度夏の勉強会

JTAT 秘書 福重 佐知子

pp. 7~8

J-LEAP Program

ウッドランズ高校 前川 穂香

pp. 8~9

Exchanges with Japan

ウッドランズ高校

北條 エリザベス

会長のご挨拶

JTAT 会長 北條 エリザベス



テキサス日本語教師会 会員の皆様

生徒と日本での引率や授業から一息の時間など、夏の予定を楽しみにしていることと思いますが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、2024年度は、理事のプレフューメ先生(Baylor University)、鈴木先生(Rice University)、加藤先生(Johnson HS)、ハリス先生(University of North Texas)と共に、私会長の北條(The Woodlands College Park HS)、副会長の市川先生(University of North Texas)と井上先生(Morton Ranch HS)、秘書の福重先生(Online Teaching in Texas)、会計の高山先生(Rice University)の五名で役員を務めさせていただきます。

2024年の新しい学年に向けて、今年もまた日本語教育関連の勉強会やSIGなどを提供できます。先日、オクラホマ大学の岡田先生による勉強会が開かれました。教育業界でよく聞くAIとは何か。そして、そのAIの力をどのように授業で活かせるか。実際に教材を作る勉強会でした。SIG1とSIG2を二つ行う予定ですが、テキサスの先生方のニーズに沿って、ズームで実行する形を考えています。夏休み明け、準備が揃い次第、ご連絡いたします。講演していただきたい先生のお名前を役員までご連絡ください。ご推薦、よろしくお願いたします。

それから、今年の定例会はTFLAで行われます。2024年度の学会はヒューストン周辺のシュガーランドで10月18日と19日に開かれる予定です。多くの先生方が参加できるよう、JTATの先生方でサポートしていきたいと考え

pp. 9~10
クラス活動報告 KAC
Mihoko Yamamura,
Hiroko Fukuhara-Karch,
Asaco Adkins

p. 10
クラス活動報告「文化祭」
リチャードソン高校
Mihoko Yamamura

p. 11
コンピューターゲームの紹介
UT オースティン校
Naoko Suito

p. 12
大学日誌
セントエドワード大学
Risa Ginther

pp. 13~14
日本語プログラム
ノーステキサス大学
竹内 弥生

p. 15
My Internship in Kyoto
Alex Hawthorne

pp. 16~17
おすすめレシビ
JTAT Officers

p. 18
TFLA Fall Conference
Presenters

p. 18
編集後記
JTAT 副会長 市川 美和子

ております。もし、所属の学校から登録金が出ない場合、または新会員で TFLA に行ったことがない先生がいらしたら、役員までご連絡ください。二人以上車で行く場合、カープリングへの補助金も出します。会員の皆さまとまた会えるのを楽しみにしております。

JTAT のウェブサイトを新しくして、メールアドレスを Google Groups に移す準備もしております。Google Groups を使うと、簡単に今までの連絡メールが見られますし、簡単に会員宛のメールが制作できますので、今までのホストサーバーよりよくなると思います。準備ができ次第、Google Groups に招待しますので、もう少しお待ちください。

個人的なことなのですが、ウェイロンはゴジラ-1.0 の影響でゴジラに、どはまりました。Pluto TV でゴジラの映画が無料見られますから、大変助かっています。学校の作文でゴジラについて書いたし、トミカやプラレールを使ってミニ東京で暴れるゴジラの遊びもしています。学校のフェアでも鶴とぴよんカエルの折り紙を売りましたので、こうして日本のルーツを楽しんでいることはとても嬉しいです。

今年の夏は5年ぶりの日本旅行をします。6月22日から7月5日まで学生と青森、仙台、京都など J-Leap の前川先生と一緒に16人の生徒を連れて行きますが、同じ時期に日本にいらしたら、声をかけてください!先生方も日本へ行かれる際は、お気をつけて、長い休みを他の市でお過ごしてください。私の会長としての務めはわずか半年ですが、何か必要とでしたら、いつでもご連絡ください。これからの JTAT 活動をどうぞ温かい目で見守っていただけたら幸いです。

引き続き、どうぞよろしく願いいたします。

テキサス日本語教師会 会長
北條 エリザベス



ヒューストン日米協会からメッセージ

JASH 片山 育代

ヒューストン日米協会 (JASH) は、7/7(日)-9/15(日)に Museum Fine Art Museum (MFAH) で開催される「Meiji Modern: Fifty Years of New Japan」を支援しており、そのためこの夏は「明治時代」をテーマに様々なプログラムを実施します。

まず7月は、MFAHとの共催で7月14日(月)2PMより、現在 Hulu にて大好評のドラマ「SHOGUN」の第8話の試写会を開催します。試写会には FX Networks の協力により第8話の監督であるヒューストン出身の Emmanuel Osei-Kuffour Jr. 監督を招きます。Osei-Kuffour Jr. 監督は6年間の日本滞在経験がある日本語がとても堪能な方で、監督としてのキャリアを日本でスタートさせました。「Meiji Modern: Fifty Years of New Japan」の展示と「SHOGUN」が同時に楽しめるこの貴重な機会に是非ご参加ください。

次に8月24日(土)には、「明治時代」をテーマにした Japan Texas Educator Professional Development Course を開催します。加えて8月下旬にビジネス講演会を予定しており、日本からスピーカーを招いて、明治時代から現在に続く企業や産業についてお話し頂きます。各プログラムの詳細、並びに申し込み方法は、決定次第当協会 Website に掲載致しますので楽しみにお待ちください。

そしてこの夏の最後を飾るイベントは、9月7日(土)-8日(日)に Hermann Park で開催する Japan Festival Houston です。エンターテイメントや各ブースでの催し、そして食べ物などを通じて「明治時代」を体験できるようなフェスティバルになるよう準備を進めています。フェスティバルの詳細やボランティア情報等は Japan Festival Houston Website に随時掲載されますので是非ご覧ください。

ご質問等はお気軽に日本語で片山 (ikatayama@jas-hou.org) までお問い合わせください。

この夏、JASHのプログラムやイベントで多くの JTAT 会員の方々や日本語を学ぶ生徒さん方にお目に掛かれることを楽しみにしております。

ヒューストン日米協会 (JASH):

<https://www.jas-hou.org/>

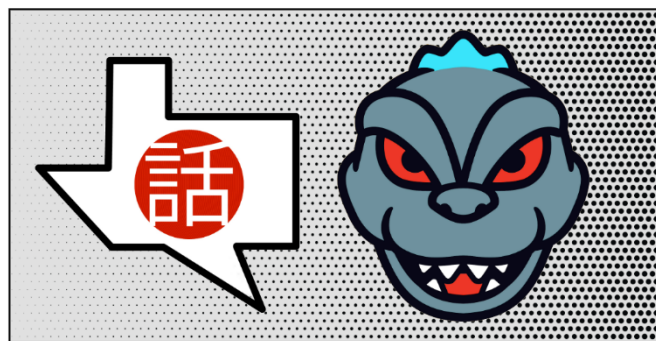
Japan Festival Houston:

<https://www.houstonjapanfest.org/>

日本語スピーチコンテスト報告

JTAT 副会長 井上 とも子

2024年3月9日土曜日、ヒューストン日米協会 (JASH) と在ヒューストン日本国総領事館が共催する『テキサス州日本語スピーチコンテスト』がライス大学で開催されました。大会では、オースティン、ダラス、ヒューストン、サンアントニオ地区大会の入賞者33人が日頃の日本語学習の成果を披露しました。開会式では、今年のテーマ『ゴジラ』の第一人者であるビル・ツツイ博士が参加者を激励しました。各部門の入賞者には、村林 弘文総領事より賞状と賞品が授与されました。高校フリースピーチ AUORA 部門1位の Lauren TIPPIN さんと、2位の Ian BARKER さんは、日本語スピーチコンテスト全米大会への出場権を手に入れました。



各部門の入賞者は以下のとおりです。

Poetry Division

1st – Onyoo JUNG, Johnson H.S., San Antonio Region

2nd – Wendy WANG, Clements H.S., Houston Region

3rd – Andres BASABE, LASA H.S., Austin Region

Haiku Division

1st- Sarah ADEYEMI, Jonson H.S., San Antonio Region

2nd- Caleb GIDDINGS, Richardson H.S., San Dallas Region

3rd- Estrella DIAZ-MENDOZA, LASA H.S., Austin Region

H.S. Free Speech Division

1st- Lauren TIPPIN, "My Experience in Japan", Boerne H.S., San Antonio Region

2nd- Ian BARKER, "The Effectiveness of Propaganda in Film", Richardson H.S., Dallas Region

3rd – Zafir KHAN, "Life Adventures Learned from the World of 'One Piece'", Clements H.S., Houston Region

College and University Free Speech Division

1st- Bryson JUN, "Japanese and Me", Rice University, Houston Region

2nd- Navtej DHARMAPURI THIRUMALA, "How We Should Approach Different Cultures", University of Texas at San Antonio, San Antonio Region

3rd- Isabella TAN, "Something I Want to Do for Life", University of North Texas, Dallas Region

Open Division

1st- Andrew HAYNES, "Panic in Meiji-Jingu", Houston Region

2nd- Celeste TOLEDO-DAVALOS, "The Sweetest Reward", San Antonio Region

3rd- Mae READY, "What We Can Do Together", Austin Region

https://www.houston.us.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00579.html

日本語スピーチコンテストについて

Isabella Tan

私は第26回と第27回のダラス日本語スピーチコンテストに参加しました。日本語スピーチコンテストが続けられていることに感謝しております。

スピーチをすることは、どんな言語でも難しいことだと思いますが、私にとって一番のチャレンジは、原稿を覚え懸命に練習することではなく、自分を直視する勇気を持つことでした。この最も困難なことに向き合い、去年の苦い経験を踏まえ、今年も勇気を持って挑戦することができたことに大変感謝しています。ダラス地区大会で一位になり、テキサス州大会で三位になれたことは、日本語能力を磨く大きな励みになりました。そして何より、日本語で自分の考えを聞いていただき、日本語がさらに楽しめるようになったことがとても嬉しいです。勇気を出してお伝えしたことが、皆さんの何かのきっかけとしてお役に立てたことを願っております。

このような素晴らしいコンテストを通して、日本語学習者が思考を深め、向上できること、また、日本文化が広め続けられるようにお祈り申し上げます。学習者の皆さん、ぜひ挑戦してみてください。

イサベラ・タン



JTAT 2023 年度 SIG#2

JTAT 秘書 福重 佐知子

2023 年度の SIG#2 は キャメロン・チェン先生の Mindful Input: Let's Give Space をテーマに、二月三日にオンラインで開催され、テキサス州のみならず、オクラホマ州からもご参加いただき、無事終了いたしました。

教える側の mindful input による、学習者のアウトプットをより一層意義ある、目下の学びに貢献できるものに練り上げるアプローチについて、活発なディスカッションが繰り広げられました。また、今回の学会では、筆者の過失によるブレイクアウトルームが使えなかったことによって、少々手間取ってしまいましたが、皆様の暖かい励ましと共に荒波を乗り越えることができました。この場を借りて、改めてお礼申し上げます。誠に有難うございました。

ブレイクアウトルームを使わなかったことによって、先生方が一丸にタスクを完成できたこと、そしてこの学会で作られた皆様の素晴らしいレッスンプランを共有していただいたことで、大きな学びを得ることができたかと思っています。

アンケート回答者は 12 名で以下のような感想を寄せいただきました。

- It was very useful seeing the example of how the class on Japanese immigrants in the US is conducted!
- Examples Chien sensei shared were the most helpful.
- Immigration Unit の授業の流れ。まず、写真を見せて、気付きを考えさせる。質問事項を考えさせる。

- Mindfully leaving the space for students to think and wonder.
- We need to think how I can stimulate students' interests in learning Japanese and content.
- I've used COMPAS Units 1 and 3 but not the immigration unit because the topic and target language seem overly challenging for my students. The way Chien Sensei showed how he uses it in his class encouraged me to try it out.
- I learned how Chapter topic can be more interactive in depth and stimulate students' curiosity.
- I use GENKI but want to add a more meaningful context to teach Japanese language and culture. I will check my students' understanding, considering the different levels. I will use a hook, mindful inputs, comprehensible inputs, scaffolding, graphic organizers, True/False with making corrections, and mindful inputs!
- How to create active engagement: giving Ss space to explore and wonder, not just grammar explanation.
- Creating mindful prompts for class activities.

JTAT では、今後も引き続き日本語教育推進について皆様と共に考えて参ります。ご参加いただきました皆様、どうもありがとうございました。

テキサス日本語教師会 秘書
福重 佐知子

JTAT 2024 年度夏の勉強会

JTAT 秘書 福重佐知子

2024 年度夏の勉強会はオクラホマ州大学で教壇に立つ岡田彩先生の Let's Create Teaching Materials with Book Creator をテーマに、五月四日に The Woodlands College Park High School で開催され、テキサス州のみならず、はるばるオクラホマ州からも対面でご参加いただき無事終了いたしました。

午前の部は主に AI ツール x EdTech ツール、最近の傾向と今後の動向、と今や旬の話題について岡田先生に熱く語っていただきました。更に、Genially, Book Creator, Wordwall, Flippity などの定番 EdTech ツールを使って即戦力になる新しいアクティビティ作りに挑戦しました。先生方が持ち寄った下さったお菓子をトピックの合間に頬張りながら、アットホームな感覚でさくさくとアクティビティ作りが捗りました。

どこにどう AI が組み込まれているか Canva, Quizizz, Padlet, そして Flip を確認し、AI の搭載によってどう新しくなったか、と今まで無料で使い倒していたものにまで課金したくなるほど魅力を感じてしまいました。個人的には今まで Canva を使うのをさげたいところでしたが、画像生成ができることや日本語フォントにも優しく対応されているのを学んだところで気持ちがゆらいでしまい、夏の間は (Free trial で!) 何かをつくっておくぞ、となぜか自分への課題を増やしていました。

最新の AI ツールにはどんなものがあるか、ChatGPT/Gemini, Diffit, Magic School AI, Coe Font など、色々使い勝手の良いものを参加者みんなで探究でき、活発なディスカッションが繰り広げられ、新しいレクシンプランのアイデアも共有されました。ChatGPT はよく語彙をリスト化するのに使っていましたが、世界中の先生たちはどう使われているのか気になっ

て、ChatGPT にきいてみました。その返された答えを GoogleDoc でどうぞご覧ください。

https://docs.google.com/document/d/1V2a0r1FH6WArLNddeAGu018PdSJ0ziCAIjBKv_Faw9M/edit?usp=sharing

今回の学会は残念ながら参加者が比較的少なかったのですが、小人数の先生方が対面で行われたことによって、直に岡田先生や先生方の対面ならではの共有できる経験と大きな学びを得ることができたかとひしひしと実感しました。この学会を通して作られた素晴らしいクラスアクティビティ、プロジェクトアイデア、そして数々のひらめきを共有していただいたことで参加された先生方に AI をよりスマートに、より効率的に取り組む自信がついたかと思われま

アンケート回答者は 2 名で以下のような感想を寄せていただきました。

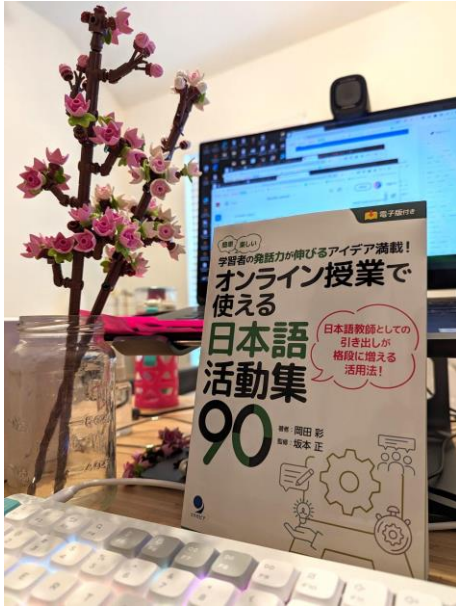
For Okada-sensei and JTAT officers:

It was helpful to get a sense of the various costs incurred by instructors to subscribe to services. Should there be a pool of funds to support a variety of instructors in JTAT - a group subscription so teachers with limited resources can also apply the techniques? I would love to have another opportunity to learn about new tools.

It was a great learning opportunity to get a peek into how Okada sensei as well as how other senseigata are incorporating A.I. into their class activities/projects. It would be interesting to find out where educators draw a line to allow students to use A.I. as part of their work.

JTAT では、今後も引き続き日本語教育推進について皆様と共に考えて参ります。ご参加いただきました皆様、どうもありがとうございました。

テキサス日本語教師会 秘書
福重 佐知子



岡田先生から参加された先生方へのプレゼントでした。
岡田先生、これはもう宝物です!

J-LEAP Program ウッドランズ高校

前川 穂香

J-LEAP とは

みなさん、はじめまして。現在 J-LEAP (米国若手日本語教員)に参加しています、前川穂香と申します。去年の8月からテキサス州、ザ・ウッドランズにあるザ・ウッドランズ・カレッジパーク高校に派遣され、アシスタントティーチャーとして、北條エリザベス先生と一緒に日本語を教えています。

J-LEAP とは、米国における日本語学習や、日米間の文化・人材交流の促進を目的として、米国の初中等教育機関に若手日本語教員をアシスタントティーチャーとして派遣するプログラムです。この事業は 2011 年から、国際交流基金と米国非営利団体ローラシアン協会と共同で実施されています。任期は 2 年間で、現在は 11 人が派遣されています。



この一年の活動

現在、学校では日本語 1・2・3・AP を教えています。生徒たちはとても明るく、一生懸命日本語を勉強してくれています。授業は北條先生と co-teaching をしながら進めていて、二人で教えています。また、北條先生が新しいことに挑戦する機会を多く与えてくださり、日本の文化についてのプレゼンテーションや、ミニユニット作りなどをしました。これらは、実際の授業で教えることができ、とても良い経験になりました。いつもの確かなアドバイスをしてくださり、支えてくださる北條先生には感謝の気持ちでいっぱいです。

授業外では、放課後に生徒の学習のサポートや、授業のスライド作り、採点などをしました。そして、今学期は活動の幅が少し広がり、演劇の先生とコラボをして、伝統芸能についてのプレゼンテーションや、ライス大学の授業にお邪魔し、日本文化についてのプレゼンテーション

を行いました。来学期はもっと活動の幅を広げ、より多くの人に日本に興味を持ってもらうきっかけ作りをしたいと思っています。



アメリカに住んでいるからこそ、今までとは違う視点から自国を見ることができ、日本語や文化を学びなおす良い機会になっています。そして、アメリカの文化に触れることができ、日々生徒から学ぶことも多く、毎日刺激的で楽しいです。

生徒との思い出

二週間に一度、日本語クラブに参加をしました。毎回生徒たちが企画をし、日本の文化とゲームの紹介をしてくれました。生徒たちが和気藹々と楽しんでいる姿を見ることができ、嬉しかったです。そして3月には、文化祭で生徒と一緒にソーラン節を踊りました。約3ヶ月練習したこともあり、踊った後の達成感は計り知れませんでした。また、日本のブースではたこやき、たいやき、抹茶ドリンクを作り、どれも大盛況のうちに終わりました。この一年で生徒との思い出がたくさんできて、とても嬉しいです。残りの一年も、生徒と楽しく日本語を勉強をしながら、思い出を作っていきたいです。

Exchanges with Japan

ウッドランズ高校

北條 エリザベス

At The Woodlands College Park High School, we have a rich history of interactions with schools in Japan. When I first joined this program, we had one-week exchange visits from three schools in Japan, during the Japanese Spring and Summer Break. These schools were Inage HS in Chiba, Ritsumeikan HS in Kyoto, and Hirakata Tsuda HS in Osaka.

During their visits, the students would see a variety of extracurricular classes like JROTC, Theater, Band and Orchestra, but would also visit Japanese classes. During the visits to the Japanese classes, after students would give self-introductions, we would often do interactive activities like signature bingo or listen to presentations and demonstrations about Japanese culture. During their time here, my students would host the Japanese students in their homes, which made the experience even more meaningful. We take trips to NASA, and if the timing of their visit is right we can even see the Rodeo, or have the students come to our school's annual Culture Festival. Now that we are beginning to go to Japan once again, my students are looking forward to seeing their Japanese exchange students during their travels.

We also have held a pen-pal program with Nakatsu ES and Nakatsu JHS of Wakayama, as well as Kochi Minami HS and Haruno HS in Kochi. My students typically write three to four letters during the school year, to which Japanese

クラス活動報告 KAC

Mihoko Yamamura,
Hiroko Fukuhara-Karch, Asaco Adkins

「今年も KAC (Kizuna Across Culture kacultures.org) の運営するグローバルクラスメイトに参加しました!」グローバルクラスメイトとは、日米の高校生がオンラインを通じて、交流するプログラムです。

Richardson HS
Mihoko Yamamura

リチャードソン高校では、淡路三原高校と Canvas 上に合同クラスを形成し、6 か月にわたり様々なトピックについて、両言語を用いてコメントや写真・動画のやりとりを行いました。

私のおすすめの場所は「和」です!
そこには美味しい食べ物が沢山あります。
淡路島に来たときには是非寄ってください。
下の写真は「唐揚げポン酢」です

My recommended place is "Kazu"!
There are so many delicious foods there!
My recommendation is "Fried Karaage Ponzu"!
Please stop by when you come to Awaji Island!

The photo below is "Fried Karaage Ponzu"



← Reply 🍌 (1 like)

Marley (US)
Oct 2, 2023

おいしそう!

That looks delicious

← Reply 🍌 (1 like)

Hototsubai(JP)

Oct 3, 2023

返信(へんしん)ありがとうございます
めっちゃおいしいよ!

Thank you for your reply!

That's very delicious!!

← Reply 🍌

Maxi(US)

Oct 2, 2023

うまい

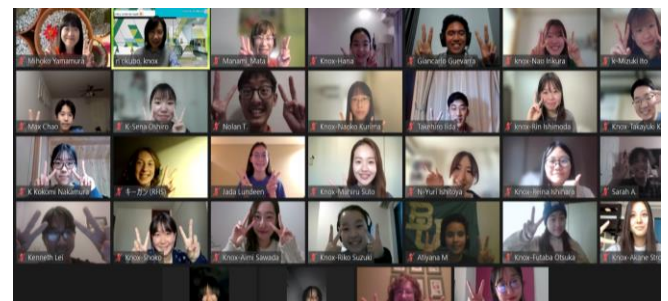
私ははし

授業中に日本の生徒の投稿を読んだり、コメントを書いたりするのも楽しいのですが、何といても、一番の楽しみはお土産交換です。届いた小包を開けて、大騒ぎをして喜んでいる様子を動画にとって、それを投稿します。また、ZOOMによるビデオチャットも生徒たちの楽しみの一つです。

生徒たちは日本の高校の様子、高校生についての理解が深まり、日本語力向上もあったかなと思います。私自身が新しく発見することもあり、他の先生方にもお勧めするプログラムです。

students write back a response. They often share Christmas cards, Valentine's Day cards and any projects we do in our classrooms. One year my students compiled a "American Wikipedia" booklet that explained the top facts of American states, and also another "Texas Wikipedia" booklet that introduced popular cities in Texas and what they are famous for. The Japanese students have shared video messages of what their dreams are, and story projects about books they have read in school. We have also participated in a virtual bulletin board with Winchester Shoei Girls HS in Tokyo, where students discussed simple topics like popular trends among HS students and favorite Japanese foods, as well as more complex ones like racism and discrimination and post-corona effects on the classroom environment. These postings were run online, and provided rather instantaneous responses, so the students enjoyed the real-time feel of the replies, instead of waiting almost a month for letters to be written and returned.

All together, these types of direct interactions between Japanese and American students are so precious and valuable, it truly makes a difference on the type of impact your language program can have. I am the only program in my school to maintain regular interaction with a school in Japan, and my students enjoy this small perk. While these efforts are removed from the set curriculum and may take extra time in a teacher's schedule, the different perspectives each student can gain about Japan are priceless! We hope to continue into the future with more meaningful interactions with schools in Japan for the 2024-2025 school year.



Liberal Arts and Science Academy
Hiroko Fukuhara-Karch

元々AP クラス(レベル4)の後も日本語をとり続けているレベル5の生徒のために始めましたが、今はレベル3と5の両方の生徒が参加し、大人数の参加になっています。すっかり日本語プログラムの「売り」です。日本語だけでなく写真やビデオを使って投稿できるので日本語に自信がない生徒たちも参加できますし、返信が来るとうれしそうです。日本とアメリカの学校のスケジュール調整などコーディネーターがサポートしてくれるし、センパイと呼ばれる大学生ボランティアも投稿してくれるので、2月に終了するまでしっかり続けられます。そして、プログラム終了時に参加者同士で SNS の連絡先交換もできるので、熱心な生徒は日本との交流を続けられます。



Lake Highlands HS
Asaco Adkins

福島県ふたば未来学園との半年間の交流を通し、同世代の考えを知ることで、日本に対する思いがより一層深まっていきました。毎回の投稿を見ながら、生徒が普段何を感じているのかを知る機会にもなりました。とても有意義な時間でした。



クラス活動報告「文化祭」
リチャードソン高校

Mihoko Yamamura

11月感謝祭休暇の前に「日本文化を知ってもらおう～おもてなし～」というテーマで文化祭を行いました。各グループでディスカッションを重ね、準備も協同作業で行い、満足度の高いグループプロジェクトになりました。他のクラスの先生方にも大変好評で、是非年中行事にしたいと考えています。尚、これに当たっては、事前にお花の先生、ボランティアのお母さんたちに生け花、着物の着付け、たこ焼き作り、お茶の指導をしていただきました。



コンピューターゲームの紹介

UT オースティン校

Naoko Suito

UT オースティン校で日本語を勉強している学生による コンピューターゲームの紹介

2年前のことになりますが、3人の学生から、UT で使用している JOSHU という日本語学習のためのウェブサイトで作れるようなコンピューターゲームを作りたいという申し出がありました。当初はボランティア活動だったのですが、幸運にも基金が下りることになり、アルバイトとしてゲームを作ることになりました。

この企画では、漢字、文法、及びカタカナ用のゲームがあり、それぞれ学生のレベル別に作られています。更に、ひらがな、カタカナ、漢字 (Yookoso と Genki に紹介されている漢字) をスタイラス、指、マウスを使って書く練習のページも含まれています。

この3人の学生のうちの2人は去年卒業し、今年度になってからは、りさんという残りの一人の学生が「NIHON GO PARTY!」という立体的な双六ゲームを作りました。この双六ゲームは三学期以上の日本語を習得した学生をターゲットにしています。漢字、カタカナ、文法、数詞、単語、文化などのミニゲームが組み込まれていて、個人で昇級していく形式と2~4人が対戦する形式があります。

「夏休みで日本語に触れる機会が少なくなった学生が、ゲームを楽しみながら日本語の復習に役立てばいいな」と思っています。



JOSHU Student Game のサイト



https://aits.utexas.edu/japanese/joshu/games_students.php

JOSHU サイトの「Links」というページには学生がオンラインで読める日本語の読み物のリストが載せてあります。多読、漫画、絵本、ニュースなど多岐にわたり、学生が推薦したものには印がつけてあります。

https://aits.utexas.edu/japanese/joshu/links/links_lang_reading_Ebooks.php

また、UTJapanLab

(<https://www.utjapanlab.com/>)も是非ご覧ください。

“The JapanLab project has generated a series of free educational resources for use in the Japanese studies classroom. Alongside Japanese Online Self-Help Utility (JOSHU), this includes exciting games like Palace of Poetry (<https://www.utjapanlab.com/palace>) which focuses on the Tale of Genji or digital board games that take students into Meiji period Yokohama (<https://www.utjapanlab.com/ready-set-yokohama>)”

JapanLab では UT の学生が中心に作っているプロジェクトが紹介されていて、ゲームを楽しみながら、日本についての理解を深めることができます。これは英語で書かれています。

学生の目線で作られているゲームが多種あるので、夏休みに日本語の勉強／復習がしたいという学生や、日本の歴史、文学、文化について知りたいという方々にも紹介して頂けたら幸いです。

大学日誌

セントエドワード大学

Risa Ginther



高層ビルの建築工事が止まないオースティンのダウンタウンの5マイルほど南にオアシスがあります。緑に囲まれたセントエドワード大学の静かで美しいキャンパスに今年は日本語と日本文化に興味を持っている四十人ほどの学生が毎週教室を賑わせました。オースティンの姉妹都市の大分市の北、別府市にある立命館アジア太平洋大学から毎年交換留学生が来ますが、今年も8人の学生がやってきました。学生の協力で日本語クラスでのインタビュー体験、文化交流会を開催することができました。当日は大雨に見舞われ参加者が登録者より減ってしまい計画していた野外競技もできず残念でしたが、参加者は手巻きずし作りから始まり、ジェンガ、黒ひげ危機一発ゲーム、けん玉、ヨーヨー、カルタなどの遊びを通じて楽しいひと時を過ごしました。納豆を含め初めて体験する食材で贅沢な手巻きを楽しんだり、ゲームを通してクラス外で交流できたことは何よりも楽しく、自分達の日本語学習が外の世界と繋がっていると実感できたようです。

3月から始まった”日本音楽大賞”も貴重な体験となりました。まず地図に自分達の学校が載っている事を喜び、春休みやイースターの長いお休みが入っても学生達はどの曲が生き残ったか楽しみに毎日チェックしていたようです。ラウンドごとの結果発表の後、自分の感情に合った”信じられない～、もう終わった～”などの表現を探すのを楽しんでいました。北條先生が準備してくださった音楽の感想のChat Matを使って1年生も2年生も好きな音楽について話せました。学生の感想の中には”宇多田ヒカルの歌声はやさしくて綺麗なのでハマります、そして曲のリズムはおそいので落ち着きます。”心の万華鏡のはやさしいので魅力的です。”アイドルは人気がありすぎるので好きじゃないです”など様々な意見があり、それに同感したり反対したりする反応をクラスに巻き起こしていました。

四月には七人の2年生の学生が National Japanese Exam に参加しました。これも自分の日本語学習を世界に結んだ機会となりました。最後のクラスでは茶道を体験し、茶道の心得である“一期一会”を噛み締めていたようです。



日本語プログラム ノーステキサス大学

竹内 弥生

日本語プログラム、インターンシップ、
そして体験やコミュニティへの想い

今年の春でノーステキサス大学日本語プログラム専攻が開始して7年が終了し、感慨もひとしおです。今回は、日本語プログラムの主流ではないが大切にしているプログラムについてお話ししたいと思います。その一つは冬休みのインターンシップで、もう一つは夏の短期留学コースです。

インターンシップのプログラムは、冬休みの日本語特別コースとして、2018年より開催してきました。京都宇多野ユースホステルでスタッフとして働きながら、仕事やそこに集うスタッフやゲストの方々とのふれあい、また京都の日常を体験しながらのプログラムです。インターンシップで年末年始を過ごす学生には楽しいながらも時差ボケとの戦いもあるので体力的にも精神的にもタフさが求められます。また、日本語力もあり責任ある人間としての推薦ができる人材でなければ送り出すことができません。一人のみの狭き門ですが、この体験の切符を手にした学生にとっては学内での勉学とは全く違う人々に出会える特別な機会になります。2020年には、二人目の学生の戻ってきた直後に新型コロナウイルスが世界を蔓延してしまいました。その後は3年間休止していましたが、昨年末より再開し、無事今回3人目の学生を送り出すことができました。

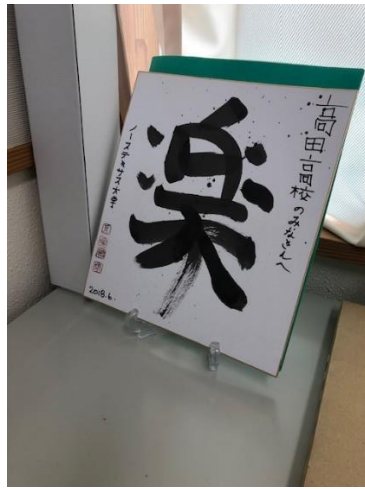
このプログラムに参加した学生たちには行く前、行った後の表情に共通点があることに気がつきました。行く前の気構えて出発が近くなるにつれ表情がきりっとしたものになる点、戻ってきた際には、まさに一皮剥けたような成長した表情が見られる点、など毎回共通して見られる点だと思っています。体験により内面から磨かれて、表情を見るだけで自信と色々な意味で力をつけて戻ってきたのがよくわかります。コロナ後の世界で再び活躍の場が広がるこの体験プログラムに学生が送りだせることは嬉しい限りです。

学生にとっては全てが新しい日本でのホステルスタッフとしてのインターンシップは、クリスマスや年末年始で、嬉し悲しいホリデーの時期で普通でも感情が揺さぶられる時期でもあります。そういう時節も踏まえての体験談を、春学期のオナーソサエティ授章式にてシェアしてもらいました。後輩たちからも積極的に質問が飛び交っていましたが、詳しくは学生の体験記事(英文) [My Internship in Kyoto by Alex Hawthorne (p.15)] をお読みいただき、またご感想をお聞かせ願えたら幸いです。

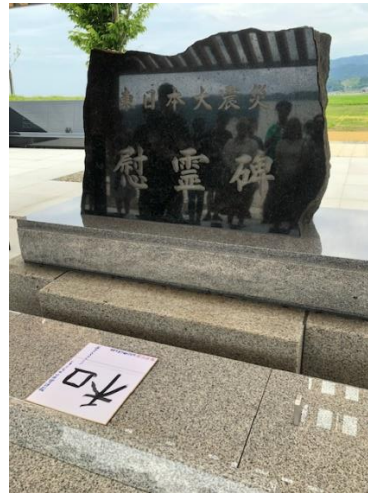
このインターンシップを始めるきっかけとなったのは、夏の日本語短期留学プログラムです。2009年の6月、初めてのグループを連れていきました。京都での1週間ほどの滞在を北野のエリアにあるこのユースホステルにて過ごし、とてもゆったりとした自然に囲まれた快適な時間を過ごすことができました。以来9つのグループを連れていき、その間にヨーロッパやアジアからの若者が働いているのを見て、ホステルのディレクターにインターンシップの可能性を打診したことから生まれたプログラムです。今は、夏の留学プログラムの滞在先変更により京都は入れていませんが、ユースホステルの方々との繋がりはこれからも大切にしていきたいと考えています。

夏の留学プログラムでもう一つ感慨深いのは、東北へのプログラムです。東日本大震災が起きた2011年は、夏のプログラムを始めて3年目でした。その2年後、2013年より、私にとってもほぼ未知の東北、岩手県陸前高田市へボランティアを兼ねた訪問を始めました。以来今年グループで東北へは累計138人、東北を含まない当初からの留学プログラムの累計は202人になります。大震災、コロナを経た日本の社会や被災地の復興の過程を学ぶことは、日本語の学習のみならず人としての核を形成する上での役に立つ体験となることと願っています。また、アメリカからの学生の学ぶ姿勢に触発され、日本の方々にも何かを考える機会やきっかけになっていただけたらと思います。

今年は、子ども食堂へのボランティア参加も実現できることになりました。日本の「子どもの孤食」の問題や「地域の異世代交流」にも関わり、留学の話のたねがさらに実っていくことを願っています。言語を使えるものとして役立て、自分のコミュニティも未来に向けてグローバルに広げていってほしいと思っています。



県立高田高校 「きみたちは甲子園にーニングの貸しがある」で有名な阿久悠の碑がある。



津波で破壊された旧吉田家住宅母屋復旧工事現場

<https://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/soshiki/kanrika/bunkazaigakari/1/1/3/4/7/138.html>



行方不明者を含め千七百人以上の犠牲を出した津波もこの美しい海から押し寄せてきた。

My Internship in Kyoto

Alex Hawthorne

In December 2023, I drowsily boarded the plane for Tokyo. I had graduated at noon the day before and left for the airport at 4 am. After about 28 hours of travel time via car, plane, bullet train, and taxi, I finally arrived. The receptionist greeted me and showed me to my dorm. After I woke up the next morning, a staff member explained the shifts.

I quickly realized the internship was not what I expected -- I had hoped to work mainly in the office, planning events, and using organizational skills built through being a club officer and TA. Nevertheless, most of my time was spent scrubbing toilets and washing dishes. I learned about the strict expectations of the Japanese service industry -- being on time meant being late. It was like I was driving on the highway without a driver's license.

I had also experienced the feeling of being a foreigner for the first time. People were not afraid to call me 外人 and to say “日本語お上手ですね。” after I asked “何名様。” A striking realization set in: If my Japanese was truly *jouzu*, they wouldn't praise me because they would assume I already know. Miscommunications in the kitchen led to the chef communicating through gestures rather than speech. Before this trip, I thought my Japanese abilities were good, but I quickly realized I still have a long way to go.

Although I helped with the hostel's events, I did not get the chance to plan my own because I got sick around New Year's Day. While I lived off of juice from the vending machine upstairs, my family helped me recover via FaceTime.

As work continued on, I became closer with my coworkers. At first, many of them had complained about me to each other in Japanese. One in particular said I was bad at cleaning, probably because of my youth. When they realized I could

have a basic conversation, they lightened up. We talked about movies, languages, and our families.

Thankfully, I had opportunities to visit friends. Kazuki, who lives in Osaka, invited me to his grandparents' house for authentic yakisoba and okonomiyaki. One day, he showed me around Kyoto. I had been craving Mexican food, so we went to a restaurant that serves burritos and quesadillas (the first food I ate after I landed in Dallas was a chicken quesadilla from Taco Bell).

On Christmas Eve, I ate fried chicken and egg tarts with my friend Frank from my university. I missed my family back home, but he helped take my mind off that feeling. Later, I took a short vacation in Tokyo for three days, where I stayed at a business hotel across the street from Sensou-ji Temple. Ayane and Eri, who had been exchange students, treated me to a rental kimono, amazake, and omikuji.

Now, as I reflect on my internship, I realize I had a whirlwind of a winter break. The trip I had planned and saved up for since middle school had not gone the way I expected, but I built resilience and gained unique experiences. During my (successful) JET interview, I talked about the ways I adjusted to the new work environment. I showed myself I am stronger than I thought. The knowledge I gained, even if it was through mopping the bathhouse and NOT pressing down the rice when serving customers, will stick with me for the remainder of my life. The value of community and home connections mean much more than ever before. In a couple of months, I will be on JET as an ALT. Thanks to the internship, this next step is less scary.



おすすめレシピ

JTAT Officers

北條エリザベス 会長
おすすめレシピ



ピーマンが苦手な方にこのレシピをお勧めします。醤油とオイスターソースが絡み合っ、ご飯が進みます！

手軽なチンジャオロース(タケノコなし)

薄切り豚肉(200グラム・牛肉もオッケー・H-martです
でに切ってある肉を使うと便利)

ピーマン(緑・黄、千切り)

☆ おろしニンニク・おろししょうが・ごま油(各大さじ1)

小麦粉

★ 酒(大さじ2)・ガラスープの素(大さじ1)・オイスター
ソース(大さじ2)・醤油(小さじ1)

まずは☆の調味料で下味をつけておいて、小麦粉をまぶします。そうしたら、少しごま油をフライパンに引いて、豚肉を入れて、中～強火で焼いていきます。火が通ったら、いったん肉を取り出して、ピーマンを入れて少し軟らかくなるまで焼きます。肉をフライパンに戻し、★の調味料を書いてある順番に入れて絡むまで焼いたら、できあがりです！

市川美和子 副会長
おすすめレシピ

忙しい時、ポットラックの時、肉のおかずが足りない時、計量なしでも作れる、「子供四人ママ」からいただいた適量(適当?!)レシピです。



お好みの冷凍ミートボールをスロークッカーに入れます。ケチャップとグレープジャムを適量(たっぷり)、醤油を少量混ぜて入れ、柔らかくなるまで煮ます。加熱すると冷凍のミートボールから水分が出ます。(水を少量入れてもOK!)スロークッカーの温度と時間は調整してください。ポットラックの時は、人数に応じてミートボールを2~3袋使います。そのまま、スロークッカーごと持っていきますよ！

井上とも子 副会長
おすすめレシピ



スーパーでアーモンドスライスの大袋を見つけたら作るおやつです。ぱりぱりしておいしいですよ。ぜひお試しください！

アーモンドスライスクッキー

- アーモンドスライス 100g
- 薄力粉 30g
- 砂糖 60g(ブラウンシュガーでも可)
- 卵 1個
- バニラエッセンス 少々

1. オーブンを170度で予熱します。
2. 溶き卵にバニラエッセンスを加えます。
3. 砂糖を入れて、つぎに薄力粉を加えます。
4. アーモンドスライスを加えて混ぜます。
5. 天板の上にクッキングシートをして、生地をうすく伸ばします。
6. 25-30分ほど、焼き色がつくまで焼きます。
7. 食べやすい大きさに切り分けて、出来上がり。(ピザカッターが便利です。)

簡単ミートボール

なんちゃってパエリア

スペイン料理の paella (パエリア) を一度口にしたので再現したく、お金のなかったバイト時代に自己流にまねて作ったなんちゃってパエリアです。肝心なのはえびの旨味を yellow rice にしみこませるように作れば、ほぼ一緒だと勝手に決めつけてできたのでございます。もちろん、ご当地のパエリアを作るには白ワイン、ムール貝、魚介スープ、鶏肉、いか、エビ、赤ピーマン、緑ピーマンなどなど食費がかさむ上に一時間くらいの手間がかかるので、時短に、より安くを目標にしてできたふざけた一品でございます。

材料はたったのこれだけ!

えび 2 lbs \$17 ぐらい

Vigo Authentic Saffron Yellow Rice 5 oz \$3



これがほぼどこでも売ってる Yellow Rice です。

1. サフロンライスの袋にのってある指示にしたがって yellow rice をつくります。
2. Yellow rice は 20~25 分ぐらいで炊けるので、そのうちにエビをきれいに洗います。
<アドバイス>
ずばらママは一度テレビをみながらエビを洗っていた時に指を切ってしまったことがあるので、洗う時だけは慎重に洗うことにしています。
3. サフロンライスが完全にたける 10 分前にきれいに頭付きのエビをライスの上に迅速にラジアルに並べていきます。私は頭を鍋の中心において並べていきます。
4. サフロンライスが炊ける頃にエビの旨味もほどよくしみこんでいるので、ふたを開けて、家族に一仕事したわーアピールをします。

このパエリアと一緒においしく頂ける tortilla española (トルティーヤエパニョーラ) もおすすめです。

「大阪食堂さん」の麻婆豆腐

自分のオリジナルではないのですが、クックパッドで「大阪食堂」さんという方のレシピを使っています。レシピのリンクはこちらです →

(<https://cookpad.com/recipe/279002>)

【材料 (2~4人分)】

| | |
|------|-------------|
| 木綿豆腐 | 1丁 |
| 豚ひき肉 | 100 g (グラム) |
| 生姜 | 1片 |
| ニンニク | 1片 |
| ネギ | 適量 |
| 豆板醤 | 小さじ1~2 |

☆調味料

| | |
|--------|--------|
| 鶏ガラスープ | 150 cc |
| 酒 | 大さじ2 |
| 醤油 | 大さじ1 |
| 砂糖 | 小さじ1~2 |
| 味噌 | 大さじ1 |

| | |
|--------|----|
| 水溶き片栗粉 | 適量 |
| ごま油 | 適量 |
| 酢 | 少々 |

【作り方】

1. 豆腐はしっかり水切りをする。生姜とニンニク、ネギはみじん切りにする。
2. 調味料は混ぜておく。
3. フライパンを熱し油を適量ひき生姜・ニンニク・ネギを炒める。香りがたってきたら豆板醤を加え炒める。
4. 豚挽肉を加え肉の色が変わったら2の調味料を加える。
5. 4が沸いてきたら豆腐を一口大に崩しながら加える。
6. 再び沸いたら弱火でしばらく煮、水溶き片栗粉の様子を見ながら回し入れとろみを付ける。
7. 粉臭さを飛ばすため一度沸騰させてから火を止める。酢を少々加え、器に盛りつけごま油を少量ふり、ネギをちらす。

TFLA Fall Conference Presenters



2024 年 Texas Foreign Language Association (TFLA) Fall Conference は、10 月 18 日 (金) と 19 日 (土) にテキサス州の Sugarland で開催されます。皆様にお会いできることを楽しみにしております。

The grouping for the JTAT sessions is as follows (**Blue name is lead presenter** - **black bolded names are the three co-presenters**):
[敬称略・順不同]

Group 1: **Fujii** / Prefume / Kumahata
VR to Activate Awareness and Support
Critical Thinking

Group 2: **Takeuchi** / Harris / Ichikawa
Unlocking the Potential in Japanese Majors
and Curriculum from Texas

Group 3: **Hatanaka** / Takayama
Treats to Success - Creativity and
Improvement through International Cultural
Activities

Group 4: **Shou** / Inoue Baker / Kato
Variety in Output - Refocusing Instructional
Strategies to Enhance Student Responses

Group 5: **Fukushige** / Hojo / Maegawa
Strength in Collaboration and Innovative
Programs

Group 6: JTAT Teireikai - **Inoue Baker** / Hojo /
Ichikawa / Takayama / Fukushige

編集後記

JTAT 副会長 市川 美和子

テキサス日本語教師会、関係者の皆様

強まる日差しに夏の訪れを感じる季節を迎えましたが、いかがお過ごしでしょうか。

今年から JTAT の副会長になり、前副会長のハリス先生から役員の仕事を引き継いでおります。副会長として、初めて JTAT のニュースレターを担当させていただきました。お忙しい中、快く記事を寄稿して下さった方々に心よりお礼申し上げます。また、役員の方の先生方のご協力にも感謝申し上げます。ぜひ、「役員おすすめの“時短、節約”レシピ」をお試ください!

私事で恐縮ですが、先学期からノーステキサス大学 (UNT) の Japanese Student Association のアドバイザーになり、先月、大学から New Student Organization of the Year と Advisor of the Year の賞をいただきました。リーダーの村上芳基さん、日本人学生、また、関係者の方々ののおかげと感謝しております。



これからも JTAT のニュースレターを通して、先生方、関係者の方々が日本語学習者やコミュニティーのため、ご活躍なさっていることをより多くの方々にお伝えできると幸いです。

暑い季節に向かいますが、どうかご自愛専一にますますのご活躍をお祈り申し上げます。

テキサス日本語教師会 副会長
ニュースレター担当
ノーステキサス大学
市川 美和子